

2026年3月期

# 決算説明資料

2026年5月11日

日特建設株式会社

©2026 NITTOC Co.,Ltd.

## Message

見えないところにこそ、私たちのプライドがある

### 社是

私たちは、見えないところにこそ、  
誠実に技術を提供して、社会から必要とされる  
企業であり続ける

### 経営理念

#### Mission

- 使命

安全・安心な国土造りに  
貢献する会社

#### Value

- 価値観

基礎工事における総合技術力と  
効率的な経営

#### Vision

- あるべき姿

信頼される技術力に培われた、  
環境・防災工事を主力とした  
基礎工事のエキスパートであり続ける

1	連結 業績サマリー	P.4~5
2	連結 四半期推移	P.6~7
3	連結 売上総利益率	P.8
4	連結 工種別推移	P.9~11
5	連結 貸借対照表	P.12
6	連結 キャッシュ・フロー計算書	P.13
7	連結 業績予想	P.14
8	中期経営計画2026	P.15~17
9	工種区分の変更について	P.18~19
10	トピックス（下水道管路補修、施工事例、研究開発）	P.20~24

◆ **受注高**：前年同期比+4.1%、前々年同期比+9.7%

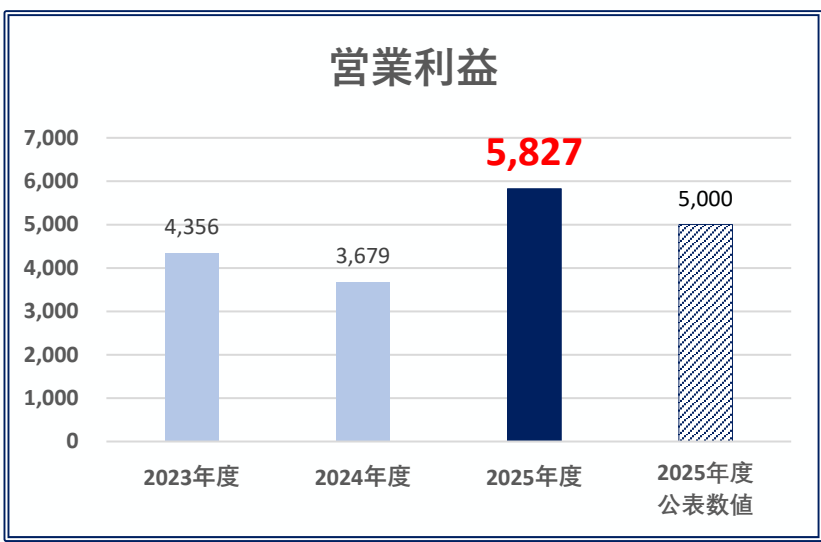
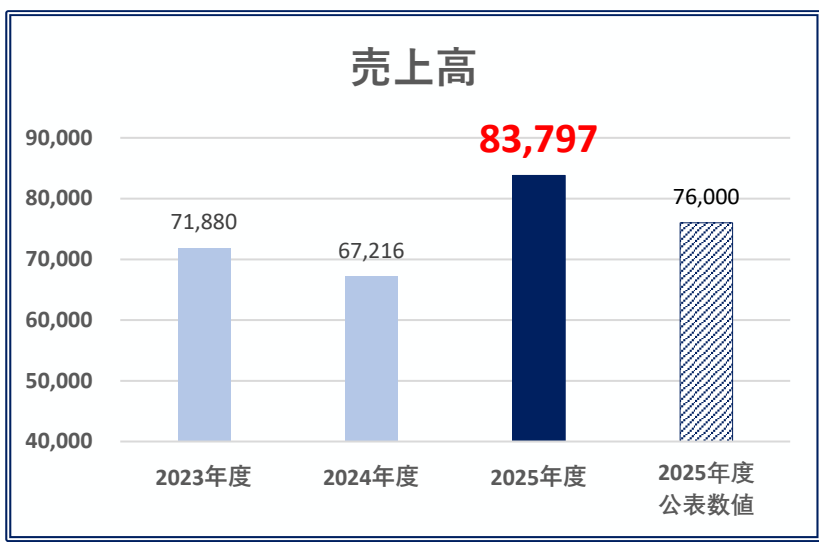
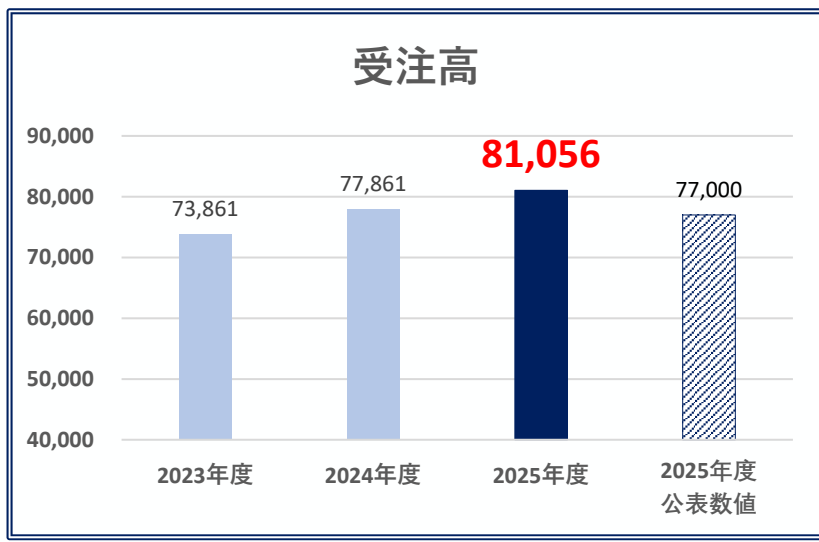
法面工事での能登半島地震の復興工事の受注増加や基礎・地盤改良工事での北海道新幹線延伸工事の受注に加え、連結子会社に加わった麻生フォームクリート株式会社の計上分などにより、前年同期比+4.1%となりました。

◆ **売上高**：前年同期比+24.7%、前々年同期比+16.6%

法面工事での能登半島地震の復興工事や奈良県の砂防・地すべり対策工事、基礎・地盤改良工事での北海道新幹線延伸工事の計上に加え、今期に寄与する工事が多かったことにより、前年同期比+24.7%となりました。

◆ **営業利益**：前年同期比+58.4%、前々年同期比+33.7%

売上高の増加に加え、受注段階からの採算性確認、施工段階における原価管理、設計変更・追加工事への適切な対応を継続したことにより、利益率および売上総利益が向上し、前年同期比+58.4%となりました。



# 1-②.連結業績数値 サマリー (単位：百万円)



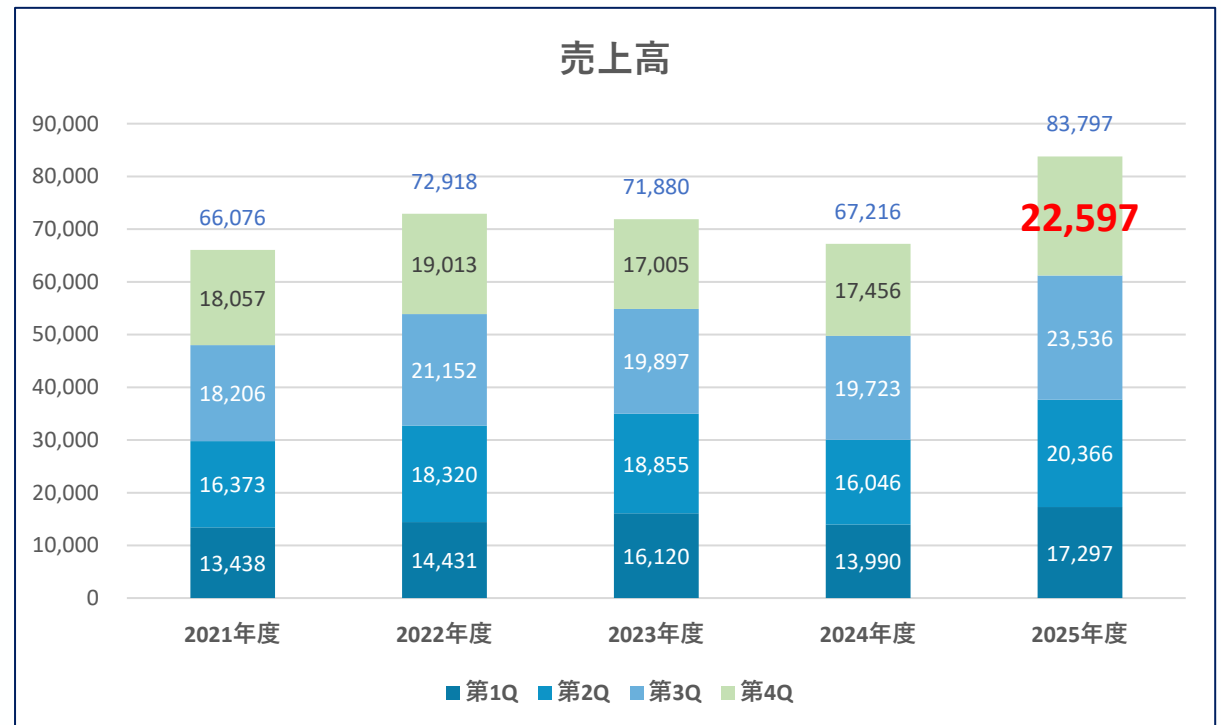
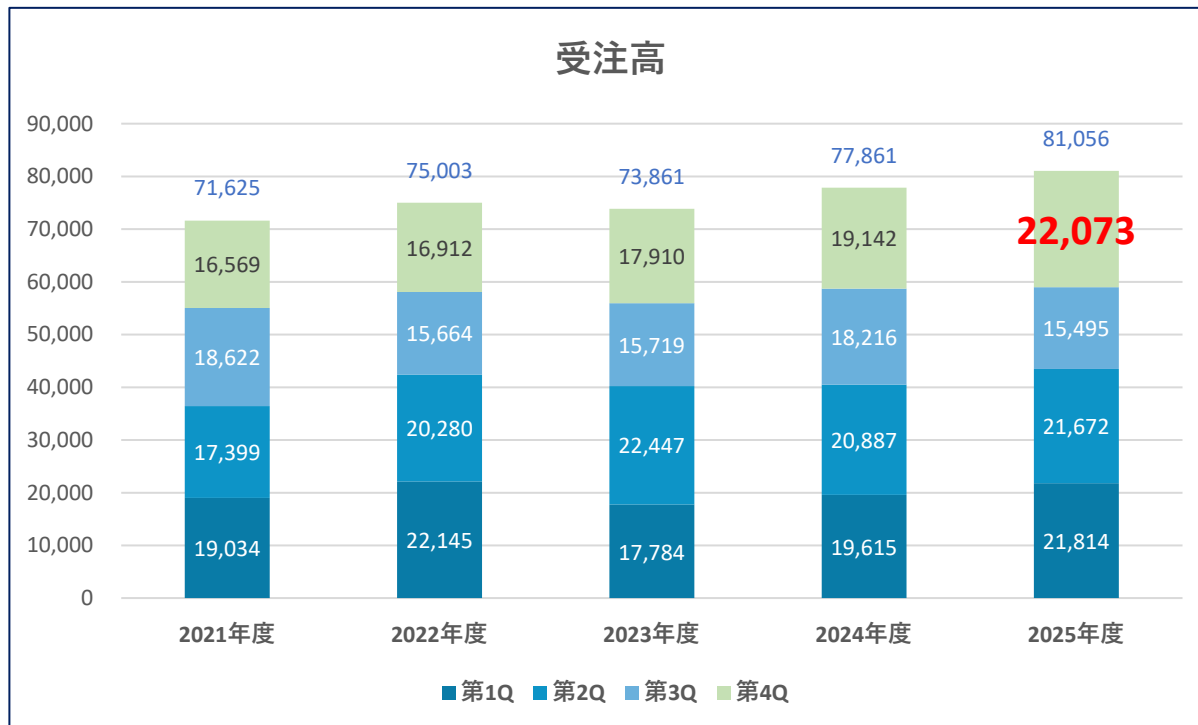
連結	2023 年度	2024 年度	公表 数値	2025 年度	対前年		対公表	
					差異	増減率	差異	%
受注高	73,861	77,861	77,000	<b>81,056</b>	3,194	4.1%	4,056	5.3%
売上高	71,880	67,216	76,000	<b>83,797</b>	16,581	24.7%	7,797	10.3%
完成工事総利益	12,708	12,562	14,700	<b>15,852</b>	3,289	26.2%	1,152	7.8%
販売費及び一般管理費	8,351	8,883	9,700	<b>10,024</b>	1,141	12.8%	324	3.3%
営業利益	4,356	3,679	5,000	<b>5,827</b>	2,148	58.4%	827	16.5%
経常利益	4,397	3,764	5,000	<b>6,035</b>	2,270	60.3%	1,035	20.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,066	2,408	3,350	<b>4,165</b>	1,757	73.0%	815	24.3%

## 2-①.連結 四半期推移（単位：百万円）

受注高：第4四半期期間（1-3月）**220億円**（前年同期比 +29億円、**+15.3%**）

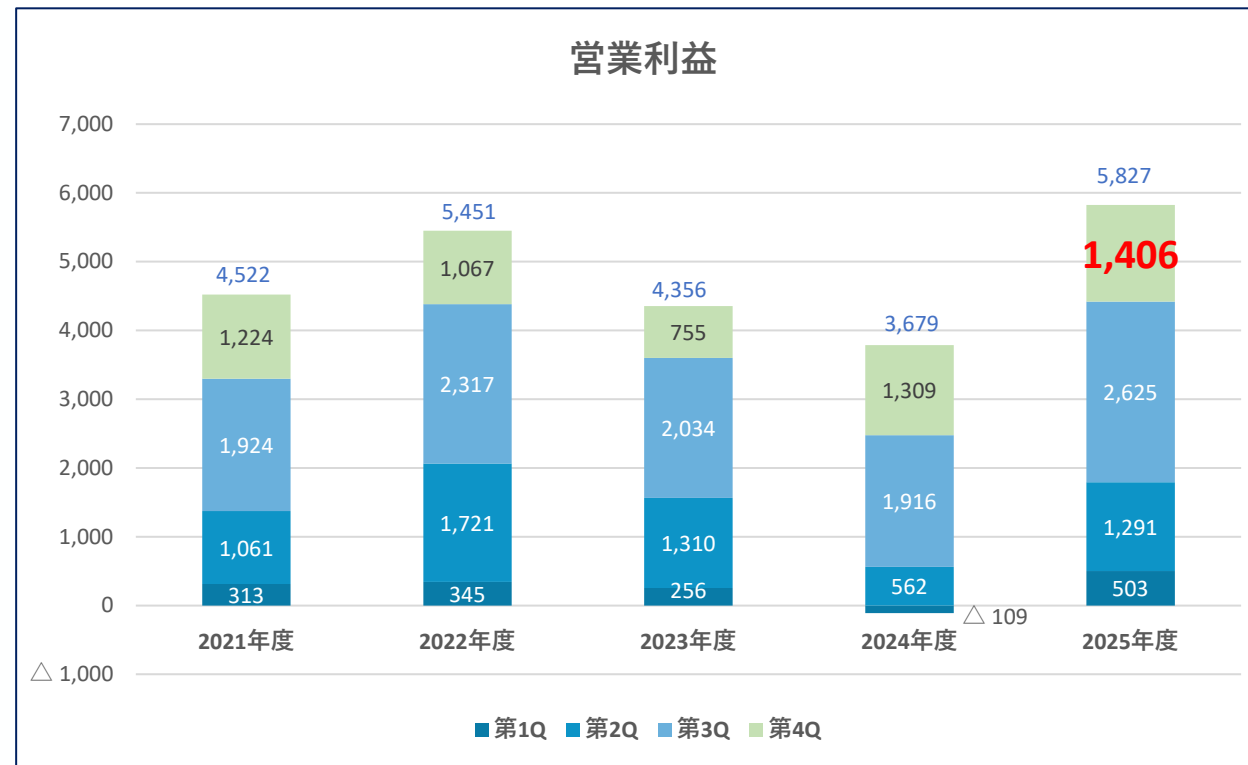
売上高：第4四半期期間（1-3月）**225億円**（前年同期比 +51億円、**+29.4%**）

能登半島地震復旧関連工事等の進捗により、売上高が増加しました。



### 営業利益：第4四半期期間（1-3月）14億円（前年同期比+7.4%）

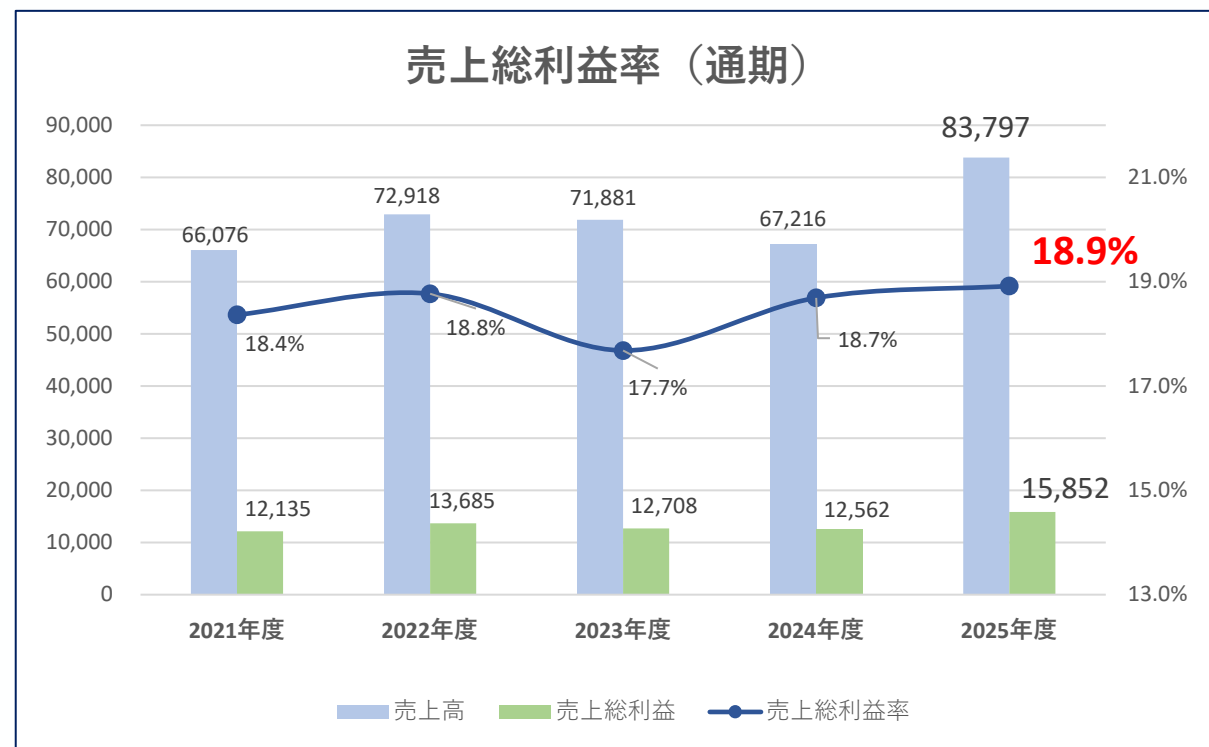
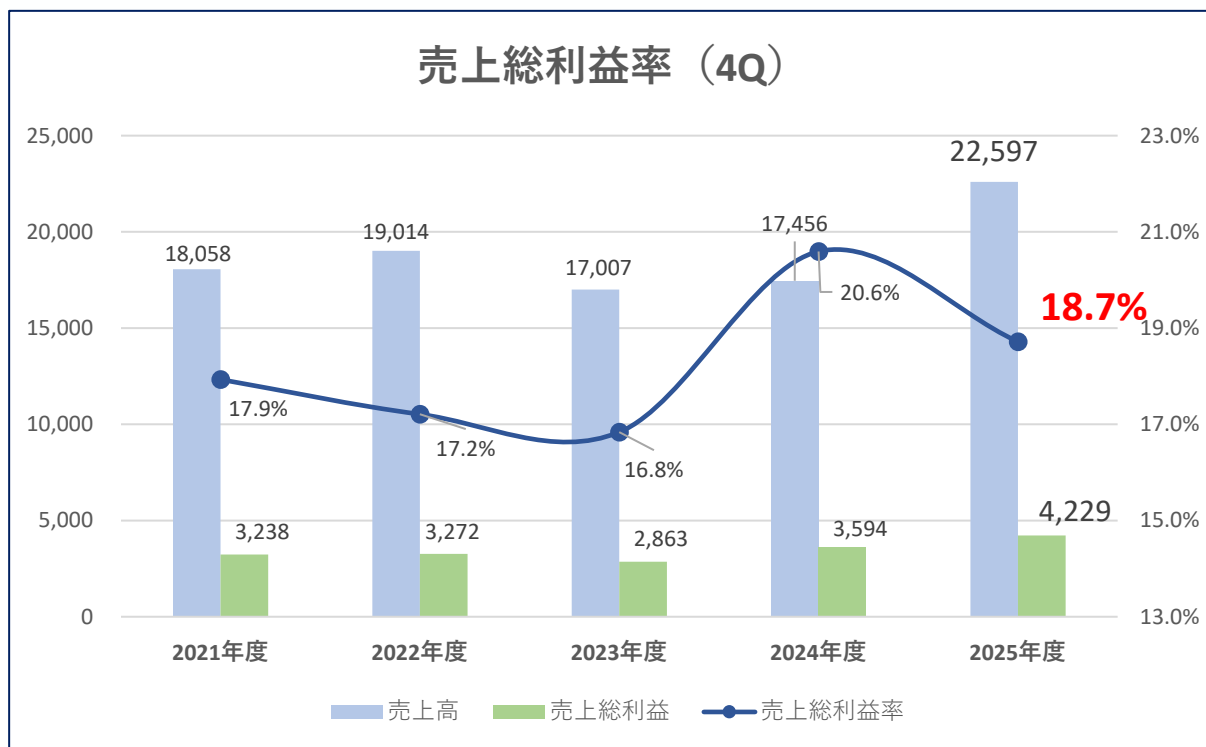
売上高の増加および原価管理の継続により、営業利益は前年同期比+7.4%となりました。売上高の増加に加え、受注段階からの採算性確認、施工段階における原価管理、設計変更・追加工事への適切な対応を継続したことにより、利益率および売上総利益が向上しました。



### 3.連結 売上総利益率（単位：百万円）

#### 売上総利益率：通期 **18.9%**（対前年同期比**0.2ポイント増**）

第4四半期の売上総利益率は案件構成の影響により前年同期を1.9%下回りました。一方、通期では受注段階からの採算性確認、施工段階における原価管理、設計変更・追加工事への対応を継続したことにより、前期比+0.2ポイント改善しました。



## 4-①.連結 工種別受注高（単位：百万円）

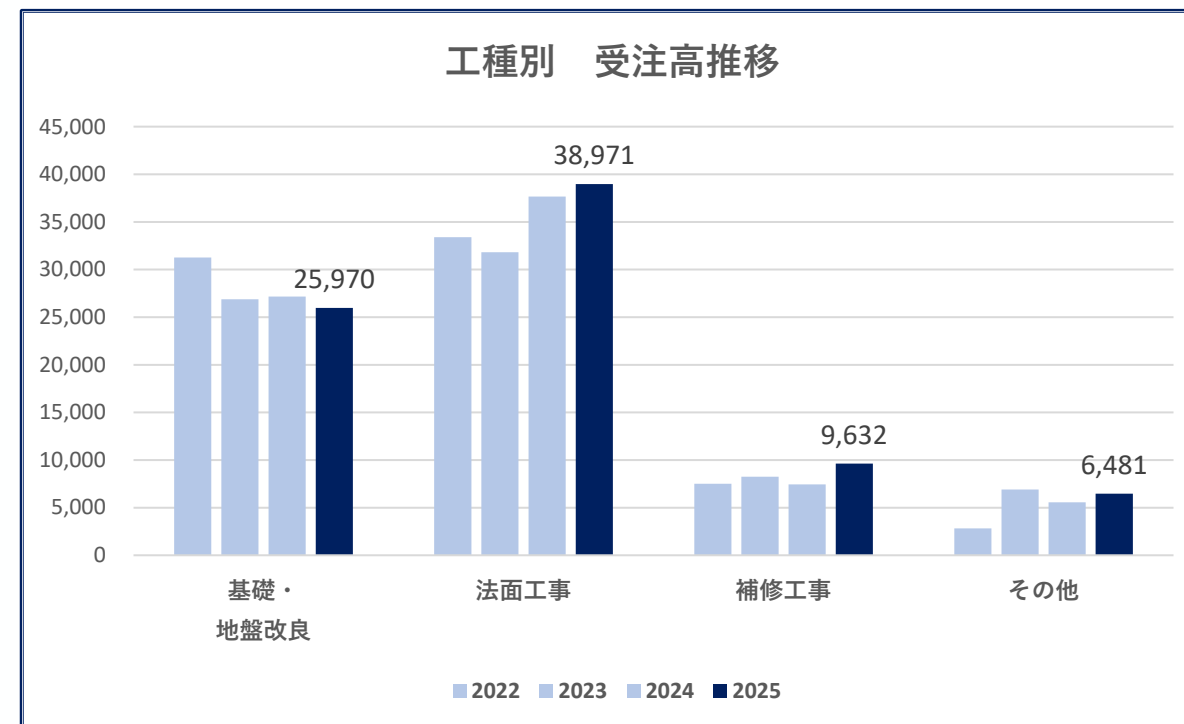


基礎・地盤改良工事：259億円（前年同期比△4.4%） 法面工事：389億円（前年同期比+3.5%）

補修工事：96億円（前年同期比+29.3%） その他（推進工事他）：64億円（前年同期比+16.4%）

基礎・地盤改良工事については、地盤改良工事は微増でしたが、その他基礎工事（ダム基礎、杭基礎）が減少したため、△4.4%となりました。法面工事については、大型工事、能登半島地震の災害復旧・復興工事の受注により、前期比3.5%増となり、全体では、前期比4.1%増となりました。

受注高 (連結通期)	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	対前期	
					増減	増減率
基礎・地盤改良工事	31,263	26,885	27,175	25,970	△ 1,205	△ 4.4%
法面工事	33,397	31,820	37,668	38,971	1,303	3.5%
補修工事	7,519	8,249	7,447	9,632	2,184	29.3%
その他	2,824	6,908	5,570	6,481	911	16.4%
合計	75,003	73,861	77,861	81,056	3,195	4.1%



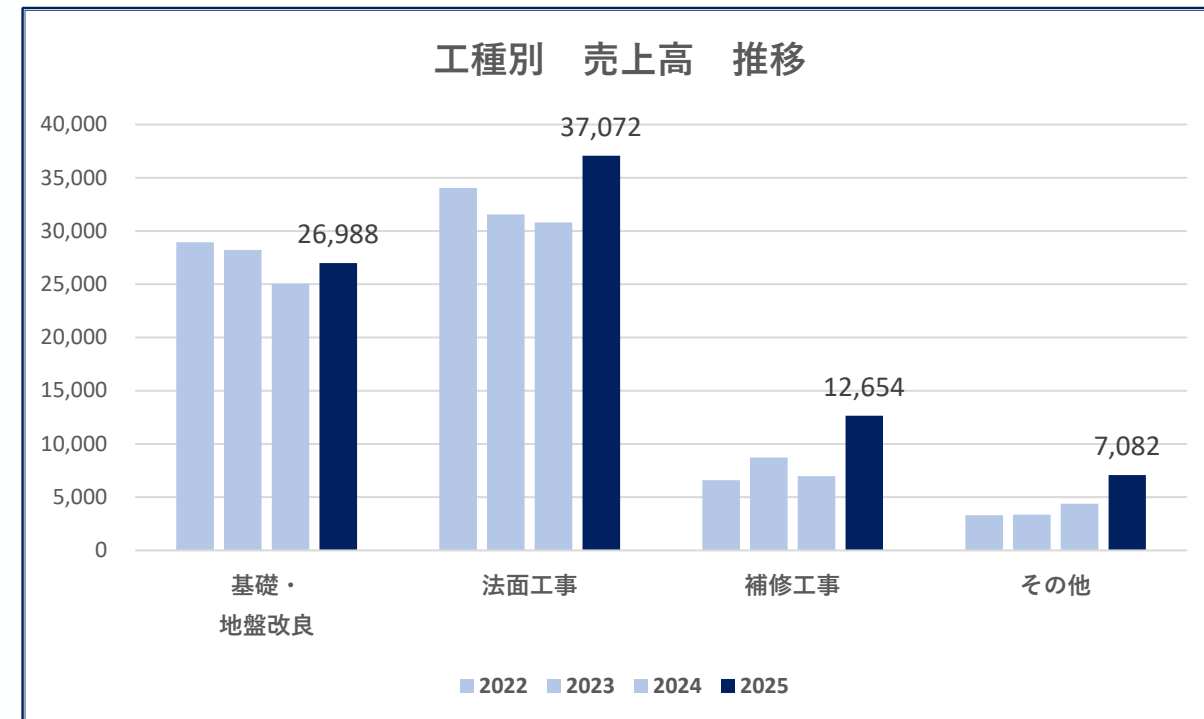
## 4-②.連結 工種別売上高（単位：百万円）

基礎・地盤改良工事：269億円（前年同期比+7.7%） 法面工事：370億円（前年同期比+20.4%）

補修工事：126億円（前年同期比+81.2%）

法面工事は災害復旧・防災関連を中心に大幅に向上し、基礎・地盤改良工事も安定的に売上を確保しました。補修工事については麻生フォームクリート株式会社の地盤改良工事を除く売上を合算したため前年同期比が大きく向上しています。なお、2026年度からは中期経営計画2026の事業戦略に合わせ、従来の補修補強工事に加え、更新・改修等のリニューアル領域を含めて分類を再整理いたします（18ページ参照）。

売上高 (連結通期)	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	対前期	
					増減	増減率
基礎・地盤改良工事	28,946	28,224	25,048	26,988	1,940	7.7%
法面工事	34,056	31,554	30,798	37,072	6,273	20.4%
補修工事	6,606	8,734	6,982	12,654	5,671	81.2%
その他	3,310	3,368	4,387	7,082	2,695	61.4%
合計	72,918	71,881	67,216	83,797	16,581	24.7%

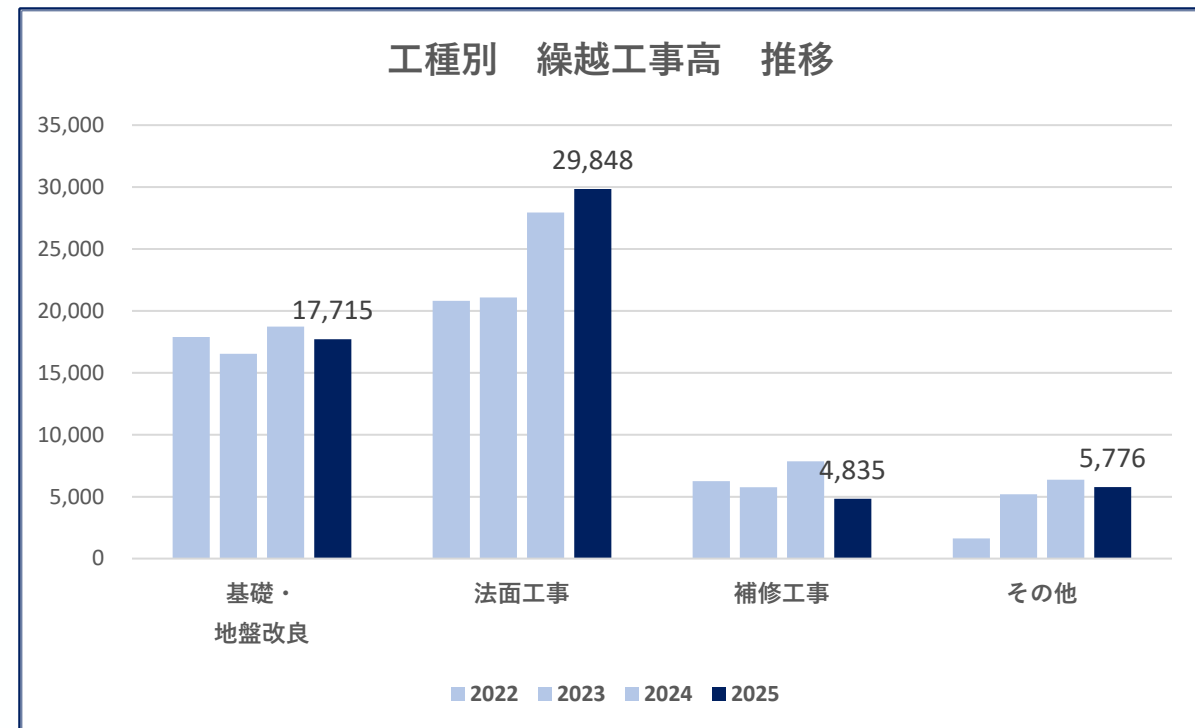


基礎・地盤改良工事：177億円（前年同期比△5.4%） 法面工事：298億円（前年同期比+6.8%）

補修工事：48億円（前年同期比△38.5%）

基礎・地盤改良工事が前年同期比△5.4%、法面工事は主として能登半島地震災害復旧工事のため同 +6.8%、補修工事は当期で売上計上が進んだため同 △38.5%となりました。繰越工事高全体は、好調な昨年同様並みの581億円を確保しました。

繰越工事高 (連結通期)	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	対前期	
					増減	増減率
基礎・地盤改良工事	17,894	16,534	18,733	17,715	△ 1,018	△ 5.4%
法面工事	20,813	21,079	27,949	29,848	1,899	6.8%
補修工事	6,260	5,775	7,857	4,835	△ 3,021	△ 38.5%
その他	1,635	5,195	6,377	5,776	△ 601	△ 9.4%
合計	46,602	48,583	60,917	58,176	△ 2,741	△ 4.5%



## 5.連結 貸借対照表（単位：百万円）

### 資産の部

	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
<b>流動資産</b>	<b>42,222</b>	<b>40,342</b>	<b>43,984</b>
うち、現金預金	19,644	18,151	17,732
うち、受取手形・完成工事未収入金等	20,971	20,191	24,423
うち、未成工事支出金	235	349	250
<b>固定資産</b>	<b>12,202</b>	<b>16,603</b>	<b>18,411</b>
有形固定資産	6,598	9,879	10,425
無形固定資産	557	476	370
投資その他の資産	5,046	6,247	7,615
<b>資産合計</b>	<b>54,425</b>	<b>56,946</b>	<b>62,395</b>

### 負債・純資産の部

	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
<b>流動負債</b>	<b>16,422</b>	<b>17,547</b>	<b>19,847</b>
うち、支払手形・工事未払金等	12,133	12,359	13,684
うち、未成工事受入金	980	1,258	840
<b>固定負債</b>	<b>3,964</b>	<b>4,830</b>	<b>4,586</b>
<b>負債合計</b>	<b>20,387</b>	<b>22,378</b>	<b>24,434</b>
<b>純資産の部</b>	<b>34,037</b>	<b>34,567</b>	<b>37,961</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>54,425</b>	<b>56,946</b>	<b>62,395</b>

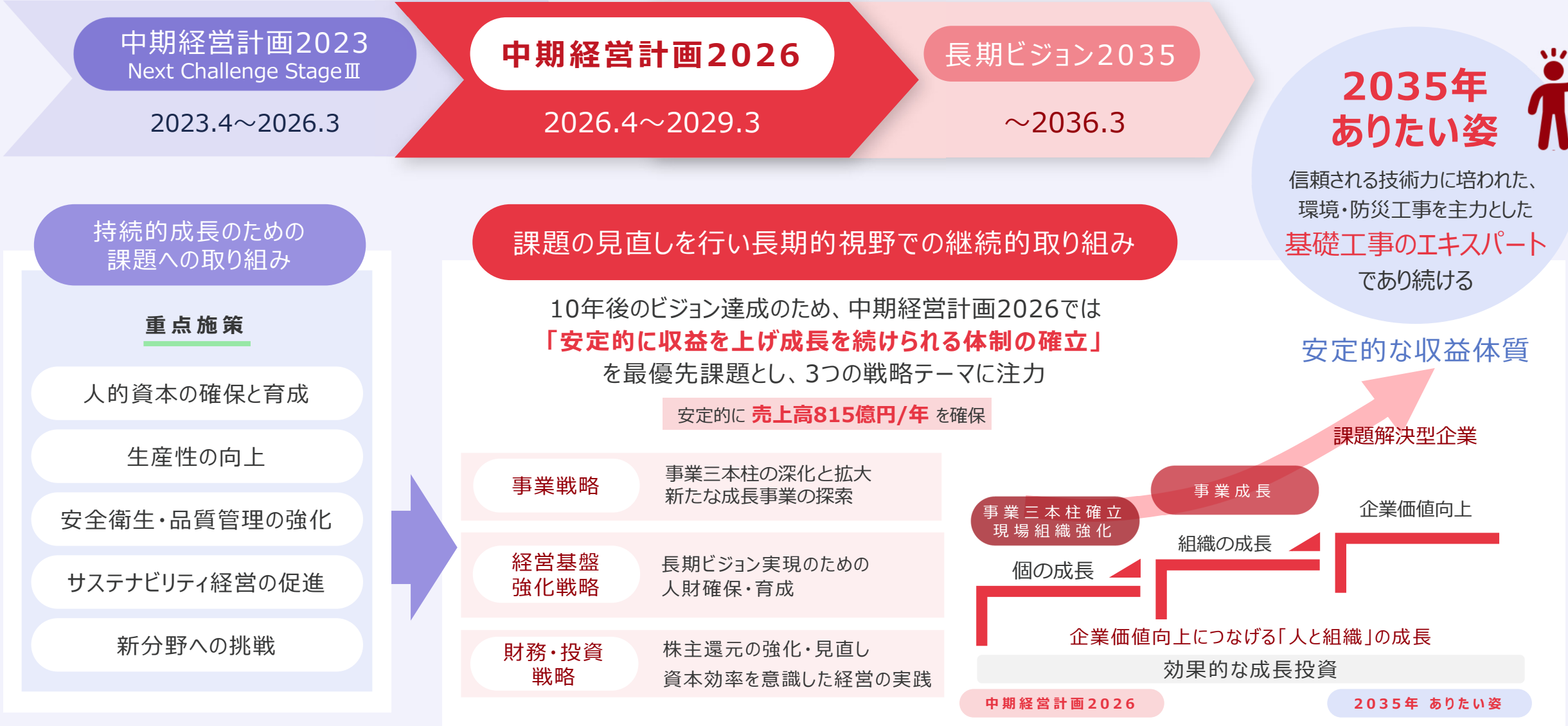
総資産は62,395百万円、これは主に能登半島地震の復興工事に対応するための施設建設や地盤改良工事の受注拡大を目的とした機械装置の購入による機械、運搬具及び工具器具備品の増加などによります。負債合計は24,434百万円、純資産合計は37,961百万円となりました。

	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,421	4,513	3,471
うち、税引前当期純利益	4,503	3,714	5,965
うち、減価償却費	781	868	1,070
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,288	△ 4,005	△ 1,766
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,965	△ 1,961	△ 2,192
うち、配当金の支払い額	△ 1,958	△ 1,960	△ 2,004
現金及び現金同等物残高	19,644	18,151	17,699

## 7.連結 業績予想（単位：百万円）

連 結	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 予想	対前年		対前々年	
				差異	増減率	差異	増減率
受注高	77,861	81,056	<b>81,000</b>	△ 57	△ 0.1%	3,139	4.0%
売上高	67,216	83,797	<b>80,500</b>	△ 3,298	△ 3.9%	13,284	19.8%
売上総利益	12,562	15,852	<b>15,100</b>	△ 753	△ 4.8%	2,538	20.2%
販管費	8,883	10,023	<b>9,600</b>	△ 424	△ 4.2%	717	8.1%
営業利益	3,679	5,829	<b>5,500</b>	△ 330	△ 5.7%	1,821	49.5%
経常利益	3,764	6,035	<b>5,500</b>	△ 536	△ 8.9%	1,736	46.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,408	4,185	<b>3,700</b>	△ 486	△ 11.6%	1,292	53.7%

2026年3月期は、能登半島地震復旧関連工事等の大型案件の進捗により、売上高・利益ともに高い水準となりました。2027年3月期については、こうした大型案件による変動要素を織り込んだうえで、売上高805億円、営業利益55億円を見込んでおります。次期中期経営計画2026では、単年度の大型案件に左右されにくい収益体質を構築するため、法面、基礎・地盤改良、リニューアルの三本柱を強化し、3か年平均で売上高815億円以上、営業利益57億円以上を安定的に確保することを目指します。



### 基本方針

安定的に収益を上げ  
成長を続けられる体制の確立

#### 主な経営指標（3か年平均）

- 連結売上高目標 : 815億円以上
- 連結営業利益目標 : 57億円以上
- ROE : 10.0%以上
- ROIC : 10.0%以上

### 事業戦略

#### 既存

事業の三本柱の確立  
(ポートフォリオの強化)

- 基礎・地盤改良工事、リニューアル工事を事業の柱に育成

#### 新規（未来戦略）

新規成長事業・技術の探索・育成

### 経営基盤強化戦略

#### 人と組織

長期ビジョン実現のための  
人財確保・育成

- 社内・社外の教育制度の大幅な強化
- 生産性向上に向けた組織構築の推進

#### サステナビリティ

社会・顧客から信頼され  
必要とされる企業

### 財務・投資戦略

#### 成長投資

既存事業のシェア拡大と  
人財・技術の獲得、  
将来の**新規分野進出**を目指す

#### 株主還元

株主還元の強化・見直し  
資本効率を意識した経営の実践

## 業績

	2024/3~2026/3 中計3か年平均（実績）	2027/3~2029/3 3か年平均	増減
売上高	743億円	<b>815億円</b>	<b>+9.7%</b>
営業利益	46億円	<b>57億円</b>	<b>+23.9%</b>
営業利益率	6.2%	<b>7.0%</b>	<b>+0.8ポイント</b>

※2026年3月期は大型案件の進捗により高水準となりましたが、当社事業は案件構成により単年度業績が変動しやすい特性があります。そのため、中期経営計画2026では単年度のピークではなく、3か年平均で安定的に売上高815億円以上、営業利益57億円以上を確保する体制を構築します。

### 財務

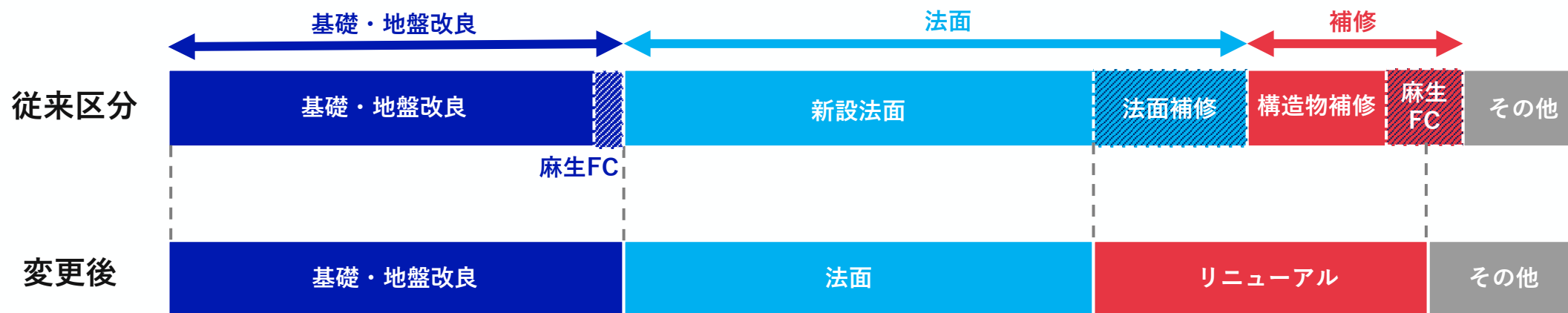
PBR	<b>1.5 倍以上</b>
ROE	<b>10.0 %以上</b>
ROIC	<b>10.0 %以上</b>
EBITDA	3か年平均 <b>60 億円</b>

### 株主還元

配当	<b>累進配当を採用</b>
DOE	<b>現状水準を維持する</b>

## リニューアル分野拡大に向け、2026年度より工種区分を変更します

今後、社会インフラの老朽化進行にともない、生活基盤の更新・保全事業が大きな市場となることが予想されます。このインフラリニューアル市場を取り込み当社の事業の大きな柱とすべく、取り組むべき対象となるインフラを明確化して資源を集中させるため、中期経営計画2026に合わせて、工種区分を変更いたします。具体的には、従来「補修補強」と区分してきた構造物の耐震補修補強工事（橋梁、トンネル）に、下水道管路補修、法面インフラ補修などを加え「リニューアル」とし、国土強靱化・生活基盤の保全に向けた取り組みを進めます。



※2025年度実績を基に作成

### 【従来区分】

法面：新設法面、法面補修  
補修：構造物補修、軽量盛土、  
管路閉塞、空洞充填工等

### 【変更後】

法面：新設法面  
リニューアル：構造物補修、法面補修（既設盛土・切土法面对策）、下水道管路補修、  
鉄道大規模更新、水力ダム嵩上げ、管路閉塞、空洞充填工等

### 工種別受注高 業績目標（単位：百万円）

2026年度の工種別受注高 業績目標は以下のとおりです。

旧区分	百万円
法面	38,500
基礎・地盤改良	27,500
補修	8,000
その他	7,000
合計	81,000

新区分	百万円
法面	29,500
基礎・地盤改良	27,500
リニューアル	17,000
その他	7,000
合計	81,000

下水道管路の点検・調査から補修・維持管理に至る課題解決をシームレスに図るため、埼玉県、埼玉県下水道公社、および当社を含む民間事業者6社の計8者にて、「下水道管路マネジメントシステムの共同研究に関する協定」を締結しました。当社は、プラントから1km先の現場で吹付が可能な「キロ・フケール工法」などを下水道向けに活用することで管路補修に貢献します。



共同研究に参画する事業者の代表が出席した協定締結式（2026年3月10日）



導水路内でのキロ・フケール工法による吹付け

## 法面の災害復旧工事（石川県輪島市）

能登半島地震により被災した県道1号線熊野トンネル坑口(穴水側)上部法面の災害復旧工事です。鉛直方向に128mと高さのある法面のため、法面に組んだ足場上にプラントを設置してモルタル吹付作業を行っています。材料であるセメントや砂は、索道を使用し大型土のうにて運搬しています。



工事名：6災9438号主要地方道七尾輪島線道路災害復旧工事（概略発注対象工事）  
発注者：石川県  
注文者：宮地・明翫・喜多JV  
工期：2025年2月～2026年9月

## 国道9号線江川橋の補修工事（島根県江津市）

当初設計されていた塗装の剥ぎ取り工法では契約工期内の施工が難しかったため、循環式ブラスト工法へ変更協議を行い、工期内に完成することができました。安全面においても特殊な防護服と吊り足場への変更を提案し、無事故にて完成。地域の主導線である国道9号線のリニューアルに大きく貢献することができました。



工事名：令和6年度国道9号江川橋橋梁補修工事  
発注者：国土交通省中国地方整備局  
当社元請工事  
工期：2024年8月～2025年7月



## 防波堤の岸壁保護（鳥取県鳥取市）

地盤改良（高圧噴射攪拌工法）により、鳥取第二防波堤のケーソン内部の中詰材を固化させ、波浪や津波に対する安定性を向上させる工事を行いました。施工箇所は陸上から約400m離れた防波堤突端部にあるため、当社の圧送技術で対応しました。冬季のため荒天による工程遅延も懸念されましたが、事前の入念な準備により無事に工事を完成させることができました。



工事名：鳥取港第2防波堤改良工事（補助）  
発注者：鳥取県  
注文者：YAHATA株式会社  
工期：2025年10月～2026年2月

## 発電所の護岸擁壁の補強（静岡県浜松市）

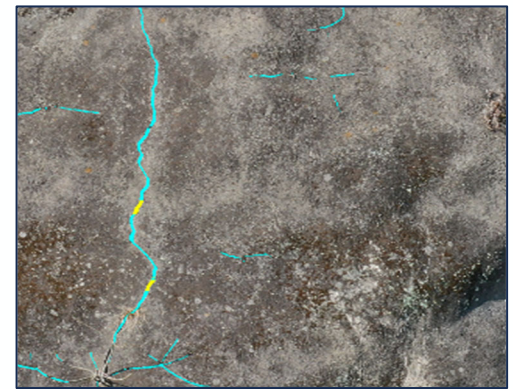
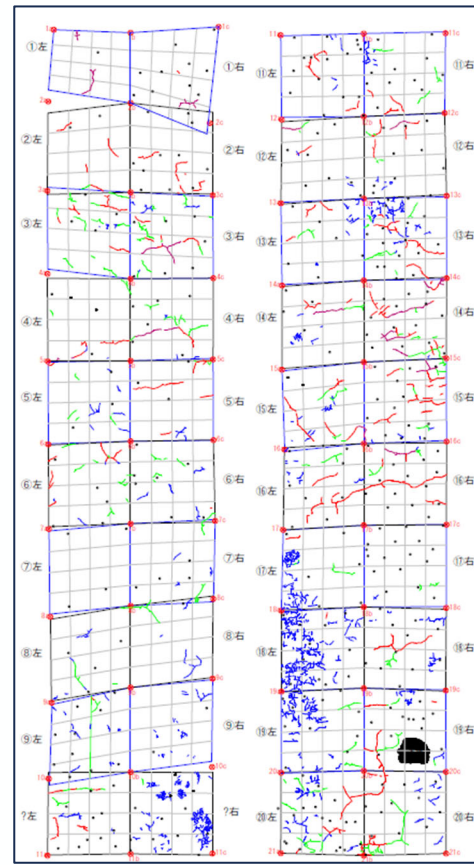
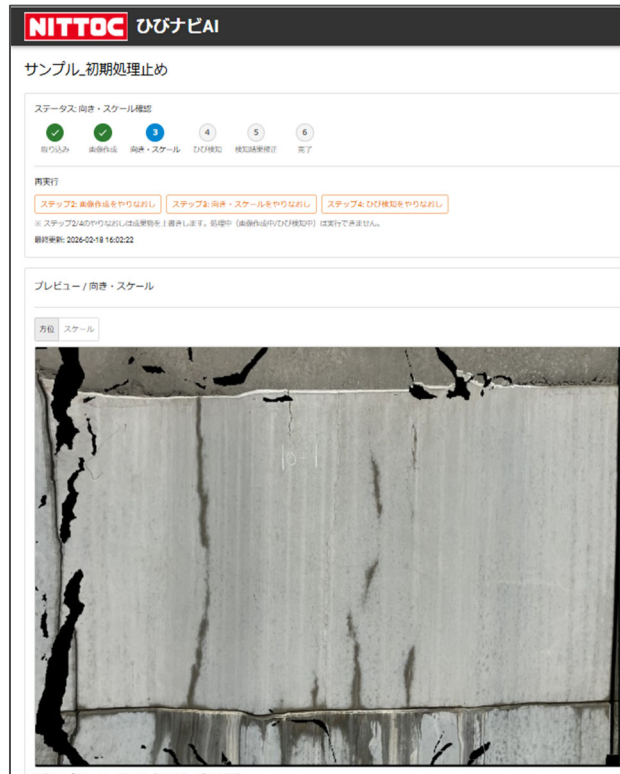
静岡県浜松市の天竜川沿いにある秋葉第一発電所の護岸擁壁補強を行いました。発注者様より相談を受け、グラウンドアンカーの設計協力から携わった工事です。河川内に進入し、アンカーを施工するため、作業は渇水期である冬季に限定されました。施工時には河川内に大型の土嚢を設置することで足場への浸水を防ぎました。



工事名：仮称）秋葉第一発電所 擁壁補強工事  
発注者：電源開発株式会社  
当社元請工事  
工期：2025年9月～2026年3月

当社が開発した「ひびナビAI」は、ひびの画像を入力すると、ひびを検知・着色・計測して出力するモルタル吹付法面用のAIクラウドアプリケーションです。法面点検作業の効率化・省力化、危険作業の低減、点検者の技量によらない点検結果の出力が可能です。

## AIを用いた吹付法面のひび割れ検知アプリ「ひびナビAI」



メッシュNo	crack id	クラック長さ(mm)	クラック幅(mm)
メッシュ①左	1	325	1.5975
メッシュ①左	2	386	2.4975
メッシュ①左	3	42	1
メッシュ①左	4	100	2.0975
メッシュ①左	5	80	1.0975
メッシュ①左	6	130	2
メッシュ①左	7	23	1
メッシュ①左	8	30	0.7
メッシュ①左	9	82	1
メッシュ①左	10	77	1.5
メッシュ①左	11	39	1
メッシュ①左	12	77	1.0975
メッシュ①左	13	100	1.5
メッシュ①左	14	776	1.5975
メッシュ①左	15	23	0.7
メッシュ①左	16	284	1.5
メッシュ①左	17	131	1.5
メッシュ①左	18	391	1.5975

① UAVやスマートフォンで吹付法面の画像を撮影

② 取得した画像をアプリにアップロードし、必要事項を入力

③ 成果物（クラックマップ、ひび画像、ひび長さ・ひび幅）を出力・ダウンロード

**国土交通省「点検支援技術性能カタログ」に掲載決定**

当社が開発した「ChemiLogix（ケミロジックス）」は、薬液注入工法において、現場とオフィスをクラウドで繋ぐシステムです。

- ・設計データを事前にクラウドへ登録することで現場作業を軽減
- ・流量・圧力データがクラウドにリアルタイムに同期され、遠隔地から施工状況が確認可能
- ・蓄積された施工データをもとに、管理図・日報などの各種帳票を自動生成

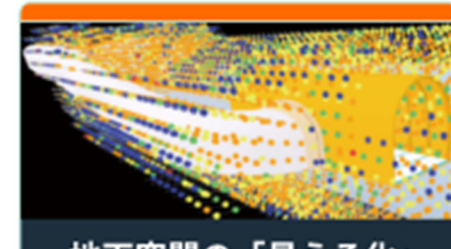
## クラウドデータ連携がもたらす新たな価値



帳票類の自動出力



遠隔地からの支援態勢



地下空間の「見える化」



施工状況のオンライン把握

※Grout Conductor（グラウトコンダクター）は、当社が開発した薬液注入制御・モニタリング装置です